

掃除終了後、班長のNさんが、「先生、Pさんたちが掃除をやってくれません。今日は、Qさんたちもあまりやってくれませんでした。」と職員室にいる担任のO教諭に元気がない顔で報告に来た。担任が聞いてみると、この2、3日、ほとんど自分一人で掃除をやっていたとのことであった。Nさんは、それをストレートに仲間に伝えることもできずに困っていた。

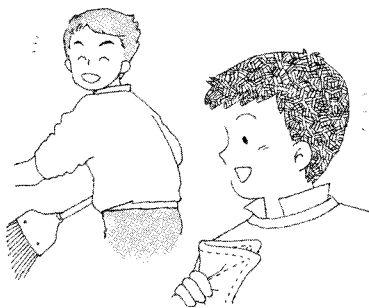
O教諭は、デスクワークを優先し、十分に掃除の様子を見なかった自分を反省した。そういえば、教室も廊下も、小さなゴミが落ちていて、心なしか荒れている。

翌日から、O教諭は教室をきれいにしようと呼びかけた。O教諭もほうきや雑巾を持ち、Pさんをはじめ、生徒に声をかけながら掃除に励んだ。声をかけられた生徒も初めはバツが悪そうだったが、次第にテキパキと体を動かし始めた。

「先生、棚の上も雑巾がけしますか？」

「うん、頼むよ。おい、Pさん、バケツを持ってきてくれ。それにしても、みんなの班はよく働くなあ。えらいよ。」

こんなことを繰り返すうちに、全員が最後まで取り組むようになり、Nさんに笑顔が戻った。



この事例では、担任が掃除を共にすることにより、Nさんのみでなく他の子供のやる気が生まれています。同行（どうぎょう）は、教師と子供の一体感を通して、子供が主体的に行動する力を高めていきます。

### 子供が求める`共汗`の世界

子供は「先生と一緒にだとやる気が出てくる。」「先生と一緒に考えてくれたのでうれしかった。」「今年の合唱祭は先生も大きな声で練習に付きあってくれて盛り上がった。」などとよく言います。教師が行動を共にすると、安易な解決策を与えるよりも一層子供が意欲的になります。

### 教師の様々な対応

掃除についての教師の対応は様々です。

- ① 報告に来た子供を見ずに「おう、わかった。」と言い、そのまま仕事を続ける。（これでは、報告に来た子供は満たされない気持ちになるでしょう。）
- ② 報告に来た子供を見て、「ご苦労さま、道具を片付けておいてね。」と言って労をねぎらうが、また仕事を続ける。（言葉がけはよいのですが、頑張った成果を見届けてほしい子供の気持ちが残ります。）
- ③ 「ご苦労さま。」と労をねぎらって、掃除の成果を見届けに行く。（先生が見届けることで、子供も認めてもらえた満足感があります。）
- ④ 子供に声をかけながら、共に汗を流して掃除をする。（先生との一体感が感じられ、子供も意欲的になります。）

教師と子供とが共に汗することで、言葉では伝えきれない多くのメッセージが子供の心に届きます。